

テクネ・マクラ「芸術は永し」

TEXNH MAKPA

女子美術大学歴史資料室ニュースレター

第 4 号



女子美術専門学校 杉並校舎 昭和10年（1935）

ニュース

女子美術大学歴史資料展示室開設

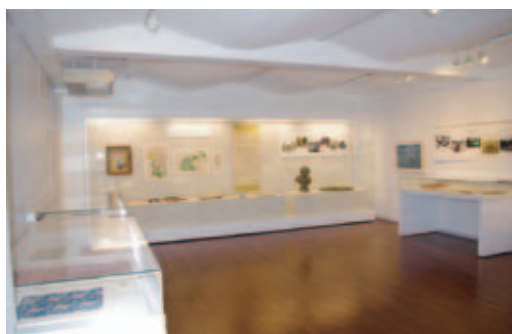
遠藤 九郎

2012年5月17日、女子美術大学杉並キャンパス新1号館1階に女子美術大学歴史資料展示室を開設いたしました。

初日には歴史資料展示室開設記念式典を開催し、大村智理事長の挨拶、小川正明常務理事による新1号館の紹介、本学初代学長・藤田文蔵先生関係作品をご寄贈いただいた羽生基雄様・ゆり子様の表彰（詳細は本誌3頁参照）、歴史資料展示室開設のために多額のご寄付をいただいた一般社団法人女子美術大学同窓会様の表彰が行われました。

本学は、私立女子美術学校として、明治33年（1900）、横井玉子先生・藤田文蔵先生ら4名によって創立されました。その際、提出された設立趣旨を、現在では、〈芸術による女性の自立〉〈女性の社会的地位の向上〉〈専門の技術家・美術教師の養成〉と要約し、建学の精神として掲げています。この精神は、校主・第二代校長の佐藤志津に引き継がれ、その後も継承されてきました。

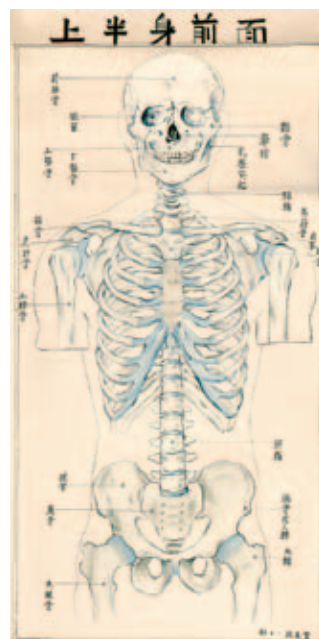
本展示室はこれらの建学の精神を今に伝え、創立者・功労者



歴史資料展示室「収蔵資料にみる女子美の歩み」展

を顕彰することを目的としています。学生・生徒への自校史教育の場として活用するだけでなく、学外に向けて、百十余年の本学の歴史を伝えていきたいと思っております。

展示室内は歴史資料と女子美術大学美術館コレクション展示に分かれており、歴史資料コーナーでは、現在、開設記念展「収蔵資料にみる女子美の歩み」を開催しています。本展の前半部分では、本学の112年の歴史の中から14の重要な歴史的出来事を取り上げ、壁面パネルにて写真とともに紹介。展示ケースの中にはそれらと関連する歴史資料32点を展示しています。また、藤田文蔵先生の作品や横井玉子先生が考案した女子改良服のパネルなども展示しています。歴史資料展示の後半部分は、明治・大正・昭和前期の教材や



朴峽賢（来賢）《藝術解剖掛図（一）全身骨格》（昭和15年）

学生作品等を紹介しています。

美術館コレクション展示コーナーでは、染織コレクションより沖縄の紅型裂を展示（6月4日まで）。会期中、展示替えをしていきます。

映像コーナーでは、「菊坂校舎*の再現・バーチャル美術館プロジェクト」の映像を放映。

今後もさまざまな展覧会・イベント等を企画していきたいと思っております。

（参与 歴史資料室担当）

*明治42年（1909）から昭和20年（1945）まで使用した本学校舎。現在の文京区にありました。

寄贈報告

藤田文蔵関係作品寄贈報告

遠藤 九郎



藤田文蔵《ベアトーベン胸像》石膏像

2012年3月、羽生基雄氏・天野恵實氏により、本学初代校長藤田文蔵先生関係作品をご寄贈いただきました（下記寄贈作品一覧参照）。

この度のご寄贈者・羽生基雄氏は、藤田先生から世田谷キリスト教会（世田谷区太子堂）を引き継いだ羽生慎氏（藤田先生末娘の夫）のご令息であり、元世田谷キリスト教会牧師、現名誉牧師であります。また、天野恵實氏は羽生基雄氏の御姉様でいらっしゃいます。

2008年から入学式等大学の行事に、創立者関係者として羽生基雄氏を来賓としてお招きするようになり、それ以降、調査等にご協力をいただいております。

藤田文蔵先生の研究については、佐藤善一本学教授が長年、

調査・研究を行い、大きな功績を残しました。その成果は、「藤田文蔵研究」『女子美術大学紀要』第30号（2000年）として報告しています。

藤田先生の作品自体は本学に残されていませんでしたが、この度、羽生基雄氏からご親類等に呼びかけていただき、皆様のご厚意により、歴史資料展示室開設の時期に、藤田先生関係作品をご寄贈いただきました。

この度、ご寄贈いただいたのは、藤田先生制作作品8点、関係作品3点、計11点です。藤田先生の作品には、石膏の素材を生かし、うねる龍の躍動感を表した《龍》や、11世紀英国の伯爵夫人レディ・ゴディバの逸話に取材した《ゴディバ(犠牲)》（未完成）などのほか、音楽を愛した藤田先生らしいベアト

ベンの胸像・レリーフやアイコン（キリスト像）の石膏レリーフが4点あります。

また、白馬会洋画研究所において黒田清輝や和田英作に学んだ画家で、多くの学校で絵画教育を教授した長尾己氏（1893－1985）が描いた藤田先生と奥様の常盤氏の肖像画や「N. Yamanaka」（作家名不詳）による藤田先生の肖像レリーフがあります。

以上の作品については、今後、調査・研究を行い、展覧会等で公開していく予定です。

なお、現在、女子美術大学歴史資料展示室で開催中の展覧会「収蔵資料にみる女子美の歩み」展にて《龍》《ベアトーベン胸像》を展示しています（10月28日まで）。ぜひ、ご高覧ください。

（参与 歴史資料室担当）

寄贈作品	ご寄贈者
藤田文蔵《ベアトーベンレリーフ》石膏レリーフ	羽生基雄氏
藤田文蔵《龍》石膏レリーフ	
長尾己《藤田文蔵肖像》油彩・カンバス	
長尾己《藤田常盤肖像》油彩・カンバス	
N.Yamanaka《藤田文蔵像》石膏レリーフ	
藤田文蔵《アイコン（キリスト像）》石膏レリーフ（3点）	天野恵實氏
藤田文蔵《ゴディバ（犠牲）》石膏レリーフ	
藤田文蔵《ベアトーベン胸像》石膏像	
藤田文蔵《アイコン（キリスト像）》石膏レリーフ	



藤田文蔵《ゴディバ（犠牲）》（未完成）石膏レリーフ 1927年

女子美人物伝

藤田 文蔵 (1861-1934) 創立者・初代校長

山田 直子



今回は、私立女子美術学校（現女子美術大学）創立者の一人であり、初代校長である藤田文蔵先生を紹介します。

藤田文蔵先生は、はじめ田中文蔵といい、文久元年（1861）、池田家の漢学者・田中幾之進の息子として因幡国邑美郡（現鳥取県鳥取市）に生まれました。明治7年（1874）、上京し、翌年、洋画家・国沢新九郎が主宰する画塾・彰技堂に学びます。明治9年（1876）工部美術学校彫刻学科に入学し、イタリアから招聘された彫刻家・ヴィンチェンツォ・ラグーザ（Vincenzo Ragusa, 1841-1927）に洋風彫刻（塑造）を学びます。この頃、兄の影響からキリスト教に関わり、築地の新栄教会にて洗礼を受けます。まもなく同教会員の藤田盡吾の養子となり、藤田に改姓します。明治20年（1887）、東京美術学校（現東京藝術大学）雇となり、27年に退職。明治31年（1898）に再び同校嘱託となり、33年（1900）に教授に就任、38年（1905）まで務めます。

代表的な彫刻作品には、《ミュレル像》（明治28年）、《榎本武揚像》（大正2年）等があります。西欧の写実的人体彫刻を学び、日本近代

彫刻の礎を築いた彫刻家といえるでしょう。

藤田先生は、明治16年（1883）に彫刻専門美術学校を設立するなど教育事業にも意欲を持っていました。そして、裁縫や礼式を教えていた教師で、西洋画を学んだ経験をもつ横井玉子先生（1854-1903）と出会い、女子のための美術学校設立を構想します。両者ともキリスト教徒であったことから、教会活動を通じて出会ったと考えられています。

明治33年（1900）、横井先生たちとともに私立女子美術学校設立を東京府に申請し、認可されます。明治34年（1901）、私立女子美術学校初代校長に就任。この際、藤田先生は、八咫鏡の中央に〈美〉の文字を配したデザインの校章を制定しました。この校章は、現在でも学生・生徒の校章や本学のロゴマークとして使用されています。

開校後、まもなく経営難となった学校運営のため、藤田先生は東京美術学校教授として受け取る報酬のすべてを本校につぎ込むなど献身的な努力を続けました。しかし、経営状態はさらに悪化。そこで、順天堂医院長夫人であった佐藤志津先生（1851-1919）に支援を求め、

彼女に学校運営を一任しました。明治37年（1904）、校主であった佐藤志津先生に校長職も任せ、辞職します。

晩年にかけては、彫刻家として《狩野芳崖像》（昭和元年）や《乃木将軍像》（絶作。水谷鉄也が継承制作し完成）などの肖像彫刻を制作しました。また、大正8年（1919）に四谷仲町教会の宣教師・ウィリアム・カニングハム（W. D. Cunningham, 1864-1936）と出会い、同教会の牧師となります。大正12年（1923）、世田谷太子堂においてキリスト教伝道を開始します。大正13年（1924）、世田谷基督教会（現世田谷キリスト教会）と世田谷幼稚園を創立し、牧師となります。昭和9年（1934）、肝臓病のため昇天するまで作品制作とキリスト教伝道に情熱を傾けました。

藤田先生は、横井先生とともに私立女子美術学校を創立することで女子のための高等美術教育を実現し、短期間ではあったものの、初代校長として教員や学生たちを導いた、本学草創期の最大の功労者といえるでしょう。

【参考文献】 佐藤善一「藤田文蔵研究」『女子美術大学紀要』第30号、2000、111-119頁

（歴史資料室学芸員）

取材レポート

企画展「葦崎大村美術館所蔵 響きあう女性美術家の世界展」記念座談会

山田 直子

2012年4～6月、茅ヶ崎市美術館において企画展「葦崎大村美術館所蔵 響きあう女性美術家の世界展」が開催されました。葦崎大村美術館は、本学理事長・大村智先生が長年収集した絵画や彫刻など美術品約2000点を収蔵する美術館で、2007年に山梨県葦崎市に私設美術館として開館、翌年、葦崎市に寄贈されました。同館は、全国にもあまり例を見ない女性美術作家の作品を展示の中心に据えており、この中には、明治33年（1900）に創立し、現在に至るまで多くの作家、デザイナー、教育者を輩出してきた本学卒業生の作品が多く含まれています。この度の茅ヶ崎市美術館展覧会では、本学出身作家を中心とする油彩画、日本画、版画、工芸など約100点が展示され、明治から現代にいたる多彩な女性美術作家の足跡とその独自の世界が紹介されました。

また、本展関連企画として一般社団法人女子美術大学同窓会神奈川支部展が茅ヶ崎市美術館・茅ヶ崎市民ギャラリーにて同時開催されました。

展覧会初日、小川稔先生（茅ヶ



左から入江観先生、大村智先生、小川稔先生（写真提供 茅ヶ崎市美術館）

崎市美術館館長）、大村智先生、入江観先生（画家・本学名誉教授）による記念座談会が開催されました。座談会は小川先生がお二人にお話を聞く形で進められました。ここでその内容の一端を紹介します。

大村先生はコレクションの経緯について聞かれ、女子美術大学の理事長に招かれた際、国内に女性画家に特化した常設展示を行う美術館がないことから本格的に収集することにしたといいます。また、葦崎市名誉市民として故郷に恩返しをするとともに多くの方々に楽しんでいただきたいと思い、収集したコレクション及び美術館を同市に寄贈したそうです。大村先生は長年の研究生活において美術品を蒐集し鑑賞することで自分の心を自由にしてきたといいます。大村先生のコレクションについて入江先生は女子美術大学卒業

生だけでなく、女性の先駆的な作家作品を含んでおり、そのことがコレクションの価値を高めているとコメントしました。

入江先生は本企画展について、以前、茅ヶ崎市内に本学校舎と付属幼稚園があったことから縁のある茅ヶ崎の地で本企画が実現し、大変うれしいと感想を述べました。入江先生は、昭和39年（1964）にフランス留学から帰国後、本学講師となり、3年後、新たに設置された茅ヶ崎校舎の短期大学専攻科絵画を担当する専任教員に就任、それ以後23年間、茅ヶ崎校舎にて後進の指導に当たりました。（茅ヶ崎校舎の歴史については6頁の年表をご参照ください。）

大村先生は、本展出品作家の中で印象深い作家について聞かれ、何人かの作家とエピソードを紹介しました。桜井悦先生については、ともにフランス留学

をした岡田節子先生との友情に感動したといいます。桜井先生は留学先でリューマチを患い、帰国後も病気と戦いながら、病気のせいにせず一心に絵を描き、一方、岡田先生は自分より桜井先生のことを優先し、桜井先生の画集をつくるなどその友情を形として残したエピソードを紹介しました。また、今回の展覧会のポスター等に使われた片岡球子先生《面構 鳥亭焉馬と二代団十郎》(1994年)については、代表的な連作〈富士山〉の他に、美術館の目玉として〈面構〉シリーズを収蔵したいと探していたところ、片岡先生が「大村先生なら特別に」といって譲っていただいたという思い出を語りました。また、2000年に横浜美術館で開催された「熱

き挑戦 片岡球子の全貌展」オープニングパーティにおける片岡先生のスピーチを紹介し、晩年に至っても富士山を描くことに情熱を注ぎ、一步一步、前進し続ける片岡先生の姿勢に感動したそうです。

女性作家あるいは女子美術大学卒業生の作家についての印象について聞かれ、入江先生は、本学学生・卒業生は、男性に対抗するのではなく、女性であることに逆らわず、自然体であることが魅力であるとコメント。一方、大村先生は、なぜ女性画家の絵はこんなに安いのだろうと思うときがあり、作品の価格のことからも女性作家が未だに正当に評価されていないと感じることがあるとコメント。また、桜井悦先生や片岡球子先生のよ

うに窮地に陥ったときの頑張りや粘りがすばらしく、感動を覚えると述べていました。

この座談会は、陽光の降り注ぐ美術館ロビーにて行われ、和やかな雰囲気が進められました。会場は出品作家の方々や、この日のために各地から集まった茅ヶ崎校舎に学んだ卒業生たちで溢れかえっており、盛況の中、終わりを迎えました。

【謝辞】本報告執筆にあたり茅ヶ崎市美術館館長 小川稔先生、館員の皆様に御協力を賜りました。心より御礼申し上げます。

【参考文献】財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団茅ヶ崎市美術館編集・発行『企画展 葦崎大村美術館所蔵 響きあう女性美術家の世界展』2012年

(歴史資料室学芸員)

女子美術大学茅ヶ崎校舎と附属幼稚園の歴史

昭和40 (1965) 年

4月 神奈川県茅ヶ崎市に校地購入 (68,000㎡)。

昭和42 (1967) 年

3月 茅ヶ崎校地に茅ヶ崎校舎のアトリエが完成。

4月 茅ヶ崎校舎にて短期大学専攻科造形専攻絵画の授業開始。

昭和43 (1968) 年

4月 茅ヶ崎校地に附属幼稚園開設。照本乗薫が園長に就任。

昭和48 (1973) 年

5月 茅ヶ崎校地で初の体育祭開催。

平成元 (1989) 年

5月 平成2年度より相模原キャンパス開設のため、茅ヶ崎校地閉鎖に伴い附属幼稚園の園児募集を停止。

平成2 (1990) 年

3月 附属幼稚園が茅ヶ崎校地売却に伴い閉園。

茅ヶ崎校舎における短期大学専攻科が3月末で終了し、4月より杉並校舎に移転。

4月 相模原キャンパス開校。



専攻科造形専攻絵画授業風景 昭和53 (1978) 年



附属幼稚園の園児たち 昭和50年代

歴史資料室日誌 2011年12月～2012年6月

2011年

12月

- 一般社団法人女子美術大学同窓会東京支部主催「母校歴史探訪」開催。講師は歴史資料室・遠藤九郎調査役。



藤田文蔵《ミュレル像》前にて
(東京大学本郷キャンパス内)

2012年

1月

- 女子美術大学友和会新年会にて私立女子美術学校初期資料ご寄贈者である大竹一弘氏・圭子氏ご夫妻、協力いただいた酒井シヅ先生（順天堂大学名誉教授・特任教授）、川合武司先生（武蔵丘短期大学学長）、西尾研一様（佐藤志津の父・尚中の弟子である西尾元詢の末裔）に感謝状が授与された。



- 女子美術大学歴史資料室編『女子美術大学創立110周年記念事業シンポジウム「現代アジアの女性作家」報告書』発行。

3月

- 羽生基雄氏・天野恵實氏より藤田文蔵関係作品・資料をご寄贈いただいた（詳細は本誌3頁参照）。
- 木下直之著『股間若衆一男の裸は芸術かー』（新潮社 2012年3月）のために画像提供。
- 女子栄養大学開催展覧会「春を味わう 野口義恵 画帖 くぢきろう」（女子栄養大学図書館）のために大正15年（1926）日本画科撰科高等科卒業生・野口義恵氏（1904-1980）について取材協力・画像提供。

4月

- 新1年生受講の基礎学習ゼミ（自校史教育）に画像提供・教材作成等協力（～5月）。



相模原キャンパスの講義の様子。担当の原聖教授

- 茅ヶ崎市美術館開催「葦崎大村美術館所蔵 響きあう女性美術家の世界展」のために画像提供。

5月

- 杉並キャンパス1号館1階に女子美術大学歴史資料展示室開設。開設記念展「収蔵資料にみる女子美の歩み」開催。
- 歴史資料展示室開設記念式典開催。



左より継岡リツ付属校長、横山勝樹学長、大村智理事長、高岡勉子大学同窓会副会長、久保田友子付属同窓会長

- 藤田文蔵関係作品ご寄贈者である羽生基雄氏・ゆり子氏ご夫妻に感謝状が授与された。



- 一般社団法人女子美術大学同窓会総会にて歴史資料展示室の解説。終了後見学。
- 早稲田大学會津八一記念博物館開催展覧会「絵をよむ言葉—美術批評家 坂崎坦・坂崎乙郎のあつめた絵画」展のために、昭和24年（1949）より本学非常勤講師、昭和35年（1960）から40年（1965）まで教授を務めた坂崎坦先生について取材協力・画像提供。

6月

- 『目で見る杉並区の100年』（郷土出版社 2012年6月）のために取材協力・画像提供。

寄贈報告 2011年12月～2012年6月

作品・資料をご寄贈いただいた方の御名前を記し、感謝の意を表します。

- 羽生基雄氏・天野恵實氏 藤田文蔵関係作品 8件、資料一式 ※本誌3頁一覧参照
- 大竹千枝子氏 『女子美術学校校友会雑誌』第8号（大正6年）1件
- 田中正明氏 辞令書等18件
- 小林文子氏 裁縫道具等一式
- 安田律子氏 女子美校章付火鉢1件
- 大澤美樹子氏 工芸科教員寄せ書き等4件
- 高橋英子氏 創立60周年記念風呂敷《TEXNH MAKPA》等2件
- 小川正明氏 私立女子美術学校規則等3件
- 真下広生氏 柿内青葉《春の粧い》1件、『真下花枝句集』1冊
- 上野晴美氏 刺繍帛紗等4件、刺繍道具一式
- 桑嶋順子氏 柳悦孝考案手織機1台
- 岩田嘉之氏 芹沢銈介直筆年賀状等11件
- 谷口秀子氏 女子学院関係書籍1冊

平成24年度 歴史資料整備委員会委員紹介

- 委員長 原 聖（芸術学部教授）
委員 広瀬きよみ（芸術学部教授）
鹿島 繭（短期大学部教授）
工藤 恒子（外部委嘱委員）
見城 美子（外部委嘱委員）
谷口 秀子（外部委嘱委員）
遠藤 九郎（参与 歴史資料室担当）
内藤 幸江（事務職員）

情報提供・ご寄贈のお願い

女子美術大学歴史資料室では本学の歴史・教育内容を伝える作品・資料の収集を行っており、特に創立期から戦前期について重点的に収集・調査しています。教材・教員写真などをお持ちでご寄贈いただける方、または情報をご提供いただける方は、女子美術大学歴史資料室までご連絡くださいますようお願い申し上げます。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

表紙写真

女子美術専門学校 杉並校舎
昭和10年（1935）

女子美術学校では、本郷菊坂に校舎があった大正末期より校舎の老朽化、狭隘化の問題から新校地獲得が検討されていた。女子美術専門学校昇格の前年である昭和3年（1928）に、豊多摩郡和田堀町和田（現杉並区和田）に校地を確保した。杉並校舎完成後、菊坂校舎に佐藤高等女学校（現女子美術大学附属高等学校・中学校）を残し、女子美術専門学校のみ昭和10年（1935）にこの杉並校地へ移転。昭和20年（1945）には同校地に佐藤高等女学校も移転。

TEXNH MAKPA 第4号

テクネ・マクラ 「芸術は永し」

女子美術大学歴史資料室ニューズレター
発行日：2012年9月1日
編集・発行：女子美術大学歴史資料室
デザイン：竹田奈那子
制作・印刷：株式会社 日相印刷

〒166-8538 東京都杉並区和田1-49-8 女子美術大学1号館1階
TEL：03-5340-4658 FAX：03-5340-4683
E-mail：heritage@venus.joshibi.jp

 女子美術大学